

資料館だより

2014年11月

II-3

相生市立歴史民俗資料館

森林の字限図^{あざげん}で地名を調べました



左の写真は横山海岸での海水浴風景で、時代は昭和10年頃と推定されます。

横山海岸は遠見山の麓を通って野瀬に行く途中ですが、ここを横山海岸と呼ぶ理由に疑問を抱いていました。

このたび、昭和35年の「山林字限図」を見ることができ、疑問が解消しました。

山林字限図は、青焼きの地図に赤の手書きで山林の区分と字が記入されています。字限図によると、普通に遠見山と呼んでいる山は「横山」で、西南の一部が「遠見山」と書かれています。横山の南山麓の海岸なので横山海岸と呼ぶことがわかりました。

棚橋純子さんが資料館だよりに連載されていた文章を集めた「ふるさと相生つれづれ草」に登場する大星ノ台・西ノ脇という地名も載っています。また、旭の旧名「藪谷」は旭の東にある山林の呼称が由来のようです。通称、幽霊山は孫七山と記載されています。



小林楓村(1886～1969)を郷土の偉人として展示中



歴史民俗資料館は2階の一室に「郷土の偉人」を展示しています。福田眉仙・水守亀之助・佐多稲子・浦山貢・浦山桐郎に加え、現在、小林楓村を展示しています。

小林楓村は郷土史の先駆者で、地域史・地域学に携わる者にとっては文字通りの「先生」です。

小林楓村は、1886(M19)年、矢野の森で誕生、才元小学校・若狭野小学校等で教鞭をとる傍ら、矢野史談会

(後の西播史談会)を主宰しました。また、磐座神社の宮司や保護司も務めています。

矢野史談会日誌を読む機会があり、日誌のなかに「大正十五年十月卅一日 矢野村史蹟絵葉書一組(五枚)を発刊し内務省出版物係へ届出 絵葉書は相生町久我商店の周旋にて大阪市で調製」という記述と絵葉書に印刷する文章を見つけました。

右は、五枚組のなかの一枚で法靈橋から見守り地蔵を写しています。

写真に重ねて「峯相記ニ(欽明天皇ノ朝、高麗ノ僧恵便ヲ播磨ニ流ス、一徒ハ矢野奥ニ三年住居ス)トアルハ此処ナリ」と印字されており、日誌に記述されている「瓜生羅漢の全景」説明文と一致します。



歴史民俗資料館のホームページ

歴史民俗資料館のホームページを作りました。アドレスは、<http://www2.aioi-city-lib.com/bunkazai/siryokan/index.html> です。ヤフーの検索で「相生市立歴史民俗資料館ー相生市立図書館」というところをクリックしますと歴史民俗資料館のホームページが開きます。

